

FVI「声なき者の友」の輪
Friends with the Voiceless International



* 写真: わさび田を流れる湧水(長野県安曇野)

2018年 冬号

URL : <http://www.karashi.net/>

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の益があるでしょうか。」

(ルカ 9:25)

堤未果氏著による「日本が売られる」という本が話題になっています。“今だけ、カネだけ、自分だけ”という生き方が、亡国への道であると私自身もかねてから警鐘を鳴らしてきた問題について明快に書いておられます。私たちが生きるために必須の「水」についての記述をご紹介します。誰でも飲めるようにと国営や公営にして採算を度外視してなされていた事業が、今や「民営化」の掛け声のもとに大企業の手任せられようとしているのです。私がかつて緊急援助に関わったことのあるボリビア、財政難に陥ったコチャバンバ市は水資源の独占的管理権を「民営化」し、企業に売却したために手痛い目に会った一例です。最初こそ少し料金が安くなったものの、営利を目的にする企業は採算の取れない貧困地域での保守管理をおざなりにし、結果、多数が感染症で死亡。しかも水事業を独占した企業は水道料金を徐々に引き上げ、ついには貧困家庭が料金を払えなくなったのです。公園の水を飲むことも禁止、井戸を掘ったら課金、雨水を貯めてもバケツ一杯ごとに料金を徴収されました。困った市民が行きついた先は「暴動」しかありませんでした。この結果 2000 年 4 月、民営化は撤回されたのですが、企業との間で 40 年契約が結ばれていたことから、契約違約金として多額の賠償金を払う羽目になったのです。

ボリビアはごく一例、世界では「水事業」を再国営（公営）化する流れが主流になっています。しかし、日本では今年 7 月 5 日、わずか 8 時間足らずの審議で水道の民営化を含む「水道法改正案」を衆議院で可決しました。“今だけ、カネだけ、自分だけ”で良いのでしょうか。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

* F V I の働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。献金をもって各カタリストをご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。